

学習フィードバックシート

プロジェクト名：ロボット型ユーザインタラクションの実用化 - 「未来大発の店員ロボット」
をハードウェアから開発する-

グループ名：Group1

担当教員名：三上貞芳、鈴木昭二、高橋信行

学籍番号 1018103 氏名 藤内 悠

1. 自己評価

評価項目	自己評価 (点数/満点)	評価基準
出席	10 /10	無断欠席回数： ・ 0回(10点) ・ 1回(5点) ・ 2回(0点)
週報	10 /10	標準点：7点 ・ すべて提出したか？ 不備はないか？ ・ 提出期限は守られているか？ ・ 報告事項の内容は十分か？
グループ報告書	7 /10	標準点：7点 ・ 誤字、脱字はないか？ 様式、体裁は整っているか？ ・ 十分な記述量があるか？ ・ 内容に矛盾がなく、再現性や合理性があるか？ ・ 客観的な記述がされているか？
発表会	7 /10	標準点：7点 ・ ポスターはわかりやすいか？ ・ 聴講者に理解してもらえたか？ ・ 説明方法は適切であったか？
外部評価	7 /10	標準点：7点 ・ 発表会やアンケートを通じた外部からの意見の評価 ・ 検討を十分行ったか？ ・ 外部意見を課題解決策に反映することができたか？ ・ 自分勝手な課題解決策になっていないか？
積極性・協調性	8 /10	標準点：7点 ・ 自ら積極的に課題を設定したか？ ・ 自ら積極的に課題の解決策を考案したか？ ・ 自ら積極的に課題を解決したか？ ・ 課題設定・解決のために議論を十分行ったか？ ・ メンバーとお互いに協力し合ったか？
計画性	15 /20	標準 14点 ・ 適切な作業計画を立てることができたか？ ・ 適切な作業分担を行えたか？ ・ 計画通りに作業を進めることができたか？ ・ 必要に応じて柔軟に計画を修正できたか？
成果	14 /20	標準 14点 ・ プロジェクト遂行に必要な知識・技術を獲得できたか ・ プロジェクトへの貢献は十分であったか 自分たちが納得できる成果が得られたか？
合計点	78 /100	

(注)週報の不備を、システム情報科学実習のホームページ→週報の提出確認のページから確認すること。

2.理由

私は出席においては一度も欠かさず参加し、やむを得ない事情を除いて遅刻することなく参加したため 10 点を個人評価として付けました。また週報も自分の形式を保ちつつ、記録として十分な内容となるようにし提出期限も守って提出したため 10 点の評価としました。一方でグループ報告書に関しては共同作業の場で記録した内容との矛盾がないものに仕上げたため標準点を付けました。中間発表では前半の司会を務め及第点がもらえるようにできたがそれ以上の点数ではないという自負があるため上記の点数としました。しかし発表の準備に向けてポスター制作の担当になった際には積極的に同担当のメンバーへの作業時間の調整や、ポスターと同じく発表の際に重要となるスライド担当の面々と協力して計画的に本番への準備を無理なく進行できたように思うため外部からの評価をいただくための十分な準備をしたと思うため 8 割ほどの点数としました。配属時やさらにその前の時点で想定していたものよりも色々と勝手が違う中で成果として非常に優れているとは思えるほどではありませんでしたが、結果が不十分でもないため及第点としました。

3. 共同作業者によるコメント

コメンター氏名 伊藤 壱 :

藤内君は班員として励むだけではなく、プロジェクト全体の視点を持って熱心に取り組んでいました。その姿勢をととても尊敬しています。私がプロジェクトを進める上でとても助けられることが多かったと感謝しています。

サイン _____

コメンター氏名 木島 拓海 :

Google ジャムボードでわかりやすく図で説明してくれたため理解するのが容易でとても助かりました。また、様々な視点から建設的な意見がもらえてとても助かりました。

サイン _____

コメンター氏名 宮嶋 佑 :

ロボットの動きを考える時に、積極的に図示して説明していて、納得させられるところが多かったです。また、意見交換をする際に、率先して意見交換の場(docs など)を開いてくれるので、円滑に物事を進めることができました。

サイン _____

3. 担当教員によるコメント

三上貞芳
教員サイン _____

鈴木昭二
教員サイン _____

高橋信行
教員サイン _____

学習フィードバックシート

プロジェクト名： ロボット型ユーザインタラクションの実用化 - 「未来大発の店員ロボット」
をハードウェアから開発する グループ名： Group1

担当教員名：三上貞芳、鈴木昭二、高橋信行

学籍番号 1018167 氏名 宮嶋佑

1. 自己評価

評価項目	自己評価 (点数/満点)	評価基準
出席	10 /10	無断欠席回数： ・ 0 回(10 点) ・ 1 回(5 点) ・ 2 回(0 点)
週報	8 /10	標準点：7 点 ・ すべて提出したか？ 不備はないか？ ・ 提出期限は守られているか？ ・ 報告事項の内容は十分か？
グループ報告書	7 /10	標準点：7 点 ・ 誤字、脱字はないか？ 様式、体裁は整っているか？ ・ 十分な記述量があるか？ ・ 内容に矛盾がなく、再現性や合理性があるか？ ・ 客観的な記述がされているか？
発表会	7 /10	標準点： 7 点 ・ ポスターはわかりやすいか？ ・ 聴講者に理解してもらえたか？ ・ 説明方法は適切であったか？
外部評価	7 /10	標準点： 7 点 ・ 発表会やアンケートを通じた外部からの意見の評価 ・ 検討を十分行ったか？ ・ 外部意見を課題解決策に反映することができたか？ ・ 自分勝手な課題解決策になっていないか？
積極性・協調性	9 /10	標準点： 7 点 ・ 自ら積極的に課題を設定したか？ ・ 自ら積極的に課題の解決策を考案したか？ ・ 自ら積極的に課題を解決したか？ ・ 課題設定・解決のために議論を十分行ったか？ ・ メンバーとお互いに協力し合ったか？
計画性	16 /20	標準 14 点 ・ 適切な作業計画を立てることができたか？ ・ 適切な作業分担を行えたか？ ・ 計画通りに作業を進めることができたか？ ・ 必要に応じて柔軟に計画を修正できたか？
成果	16 /20	標準 14 点 ・ プロジェクト遂行に必要な知識・技術を獲得できたか ・ プロジェクトへの貢献は十分であったか 自分たちが納得できる成果が得られたか？
合計点	80 /100	

(注)週報の不備を、システム情報科学実習のホームページ→週報の提出確認のページから確認すること。

2.理由

私は、全ての項目において評価基準をクリアしていると考えたため、標準点または、標準点以上の点数をつけた。標準点よりも高く点数を設定した部分について、はじめに、積極性・協調性では、グループ内の意見を出し合う場面や、中間発表のプロジェクト全体のスライド作りにおいて、自ら積極的に問題点や解決策を考案した。また、グループ内のみならず、プロジェクト全体にも、自分の気づいたことや考えたことについて、積極的に意見できたと考えている。次に計画性については、中間発表のプロジェクト全体のスライド作りにおいて、期日までにここまで終わらせるなど、途中でいくつかのゴールを設けた。そうすることで、日々の作業量の分散化、効率化を図り、最後になって慌ただしくなってしまうスケジュールにならないよう、調節を行った。最後に、成果については仲間の考えはもちろん、自分の考えも多く反映された発表ができた。また、中間発表終了後に、仲間から「助かった」や、感謝をされたりした。以上の、仲間からの言葉も鑑みて、成果の自己評価点数を基準点よりも高く採点した。

3. 共同作業者によるコメント

コメンター氏名 伊藤 壱：

とても頑張っていたと思います。宮嶋さんの論理的な意見に何度も助けられました。責任感が強く最後まで仕事をやり抜く力を見習いたいと思います。

サイン _____

コメンター氏名 藤内 悠：

話し合いや全体での作業が滞ってしまいそうな時に革新的なアイデアを提示し、参考になりそうな情報や資料を前もって準備する姿勢にはグループ全体として助けられたことが多くありました。

サイン _____

コメンター氏名 木島 拓海：

中間発表ではスライド資料の作成や動画の進行などやってもらいとても助かりました。また、CAD ではベアブリック の腕の様々な角度でどうなっているかを画像で送ってもらいとても参考になりました。

サイン _____

3. 担当教員によるコメント

教員サイン _____ 三上 貞芳

教員サイン _____鈴木昭二_____

教員サイン _____高橋信行_____

学習フィードバックシート

プロジェクト名： ロボット型ユーザインタラクションの実用化 - 「未来大発の店員ロボット」
をハードウェアから開発する -

グループ名：Group1

担当教員名：三上貞芳，高橋信行，鈴木昭二

学籍番号 1018194 氏名 伊藤 壱

1. 自己評価

評価項目	自己評価 (点数/満点)	評価基準
出席	10 /10	無断欠席回数： ・ 0回(10点) ・ 1回(5点) ・ 2回(0点)
週報	6 /10	標準点：7点 ・ すべて提出したか？ 不備はないか？ ・ 提出期限は守られているか？ ・ 報告事項の内容は十分か？
グループ報告書	8 /10	標準点：7点 ・ 誤字、脱字はないか？ 様式、体裁は整っているか？ ・ 十分な記述量があるか？ ・ 内容に矛盾がなく、再現性や合理性があるか？ ・ 客観的な記述がされているか？
発表会	8 /10	標準点：7点 ・ ポスターはわかりやすいか？ ・ 聴講者に理解してもらえたか？ ・ 説明方法は適切であったか？
外部評価	9 /10	標準点：7点 ・ 発表会やアンケートを通じた外部からの意見の評価 ・ 検討を十分行ったか？ ・ 外部意見を課題解決策に反映することができたか？ ・ 自分勝手の課題解決策になっていないか？
積極性・協調性	9 /10	標準点：7点 ・ 自ら積極的に課題を設定したか？ ・ 自ら積極的に課題の解決策を考案したか？ ・ 自ら積極的に課題を解決したか？ ・ 課題設定・解決のために議論を十分行ったか？ ・ メンバーとお互いに協力し合ったか？
計画性	19 /20	標準 14点 ・ 適切な作業計画を立てることができたか？ ・ 適切な作業分担を行えたか？ ・ 計画通りに作業を進めることができたか？ ・ 必要に応じて柔軟に計画を修正できたか？
成果	18 /20	標準 14点 ・ プロジェクト遂行に必要な知識・技術を獲得できたか ・ プロジェクトへの貢献は十分であったか 自分たちが納得できる成果が得られたか？
合計点	87 /100	

(注)週報の不備を，システム情報科学実習のホームページ→週報の提出確認のページから確認すること。

2.理由

私はプロジェクトリーダーとして、プロジェクトの始動時から尽力してきました。毎実習時間中に開かれる会議では階出席し、全ての会議において議題や計画など事前に準備して司会進行を勤めました。また、ロボット開発を円滑に進める上で必要不可欠な、技術担当の割り当てと学習計画を所属グループ内で積極的に検討し班員の同意を得た上で計画を決定して行きました。以上のことから、出席、積極性・協調性、計画性について上記の点数がふさわしい評価だと考えました。さらに、中間発表において所属グループの発表資料の作成を手伝いました。著作権に気を付けながらデザインを工夫し、伝わりやすい説明を考えました。その結果として、中間発表で多くの質問や意見を頂くことが出来ました。さらに、評価者からより良い意見をもらうために、独自の質問サイトを用意しました。以上のことから、発表会、外部評価について上記の点数をふさわしい評価だと考えました。週報に関しては全て提出しましたが、振り返ると報告の綿密さに欠けると感じました。グループ報告書に関しては順分な記述量を保ち、客観的な視点に基づいて書かれていると判断しました。以上のことから、グループ報告書、週報について上記の点数をふさわしい評価だと考えました。以上のすべてを振り返り、プロジェクトリーダかつ班員としての役割を全うしたと判断し、成果含め全ての項目に対する私の評価は正しいものであると考えました。

3. 共同作業者によるコメント

コメンター氏名 藤内 悠：

プロジェクトのリーダーを並行しつつグループの作業方針においても中心的な役割を果たし方向性を指し示すことが多かったと思います。Group1に限らずプロジェクト全体が計画性を持って作業できたのは伊藤君のおかげです。

サイン _____

コメンター氏名 宮嶋 佑：

プロジェクトのリーダーを務めていながらも、グループ内でも率先してアイデアを出したり、意見を出していました。また任された学習領域の電子回路部分では、積極的に学習を進めていたり、知識の共有を行っていました。

サイン _____

コメンター氏名 木島 拓海：

プロジェクトリーダーとして円滑に話を進めてもらっただけではなく、知識も豊富で様々な角度からの意見がもらえて助かりました。

サイン _____

3. 担当教員によるコメント

教員サイン 三上貞芳

教員サイン 高橋信行

教員サイン 鈴木昭二

提出日： 令和2年 7月 20日

学習フィードバックシート

プロジェクト名： ロボット型ユーザインタラクションの実用化-「未来大発の店員ロボット」
をハードウェアから開発する- グループ名： Group 1

担当教員名：三上貞芳先生、鈴木昭二先生、高橋信行先生 学籍番号 1018239 氏名 木島拓海

1. 自己評価

評価項目	自己評価 (点数/満点)	評価基準
出席	10 /10	無断欠席回数： ・ 0回(10点) ・ 1回(5点) ・ 2回(0点)
週報	6 /10	標準点：7点 ・ すべて提出したか？ 不備はないか？ ・ 提出期限は守られているか？ ・ 報告事項の内容は十分か？
グループ報告書	7 /10	標準点：7点 ・ 誤字、脱字はないか？ 様式、体裁は整っているか？ ・ 十分な記述量があるか？ ・ 内容に矛盾がなく、再現性や合理性があるか？ ・ 客観的な記述がされているか？
発表会	6 /10	標準点：7点 ・ ポスターはわかりやすいか？ ・ 聴講者に理解してもらえたか？ ・ 説明方法は適切であったか？
外部評価	7 /10	標準点：7点 ・ 発表会やアンケートを通じた外部からの意見の評価 ・ 検討を十分行ったか？ ・ 外部意見を課題解決策に反映することができたか？ ・ 自分勝手な課題解決策になっていないか？
積極性・協調性	5 /10	標準点：7点 ・ 自ら積極的に課題を設定したか？ ・ 自ら積極的に課題の解決策を考案したか？ ・ 自ら積極的に課題を解決したか？ ・ 課題設定・解決のために議論を十分行ったか？ ・ メンバーとお互いに協力し合ったか？
計画性	12 /20	標準 14点 ・ 適切な作業計画を立てることができたか？ ・ 適切な作業分担を行えたか？ ・ 計画通りに作業を進めることができたか？ ・ 必要に応じて柔軟に計画を修正できたか？
成果	12 /20	標準 14点 ・ プロジェクト遂行に必要な知識・技術を獲得できたか ・ プロジェクトへの貢献は十分であったか 自分たちが納得できる成果が得られたか？
合計点	65 /100	

(注)週報の不備を、システム情報科学実習のホームページ→週報の提出確認のページから確認すること。

2.理由

まず、週報に関しては、グループ週報に関しては不備なく提出期限までに提出したが、個人週報に関しては、前期 6 月分の一部週報に活動期間を誤った期間で提出してしまったことがあり上記の点数とした。発表会に関しては、ポスターや動画等はわかりやすく聴講者に理解したと思えるが、質疑応答時間が十分に取れず一部の聴講者の十分な質疑応答が出来ずになってしまったため上記の点数とした。積極性・協調性、計画性、成果に関しては、対面でなくオンラインということもあるが、個人的には積極的よりかなり受け身で行っていた。また、計画性と成果に関しても、個人的には蔦屋で購入した工作物を作れただけで大きな成果があったとは思わなかったため上記の点数としたが、グループとしては、計画性や成果に関しては大きくあったと思う。現時点でグループ報告書と外部評価に関しては、作成、検討をまだ行っていないため標準点とした。

3. 共同作業者によるコメント

コメンター氏名 宮嶋 佑：

グループ内での中間発表のスライド資料作りでは、的確な意見がもらえて助かりました。また、必要となった学習領域の割り当ての際、率先してそその学習領域に就いていました。

サイン _____

コメンター氏名藤内 悠：

木島君は話合いの場で方向性の確認や脱線をしないように適宜指摘してくれたと思います。また活動の際に多角的な視点で意見を出してくれた為、様々な間違いを早期に発見し非常に助かる場面が多くありました。

サイン _____

コメンター氏名 伊藤 壱：

木島君はどんな状況でも軽快に話をしてくれるので、多くの班員がその雰囲気になまされたと思います。これからも持ち前の気前の良さでプロジェクトを支えてほしいと思います。

サイン _____

3. 担当教員によるコメント

教員サイン 三上貞芳

教員サイン 鈴木昭二

教員サイン 高橋信行